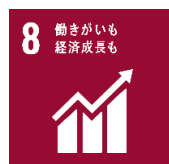


2023年度 環境経営レポート

期間：2023年7月～2024年6月



2024年 9月20日
株式会社 向江組



2023年度

項目	ページ
1. 組織の概要	-1-
2. 実施体制	-2-
3. 環境経営方針	-3-
4. 環境経営目標（本社事務所、現場事務所）	-4-
5. 環境経営計画	-5-
6. 環境経営目標の実績	-6-
6. 環境経営目標の実績 [参考資料]	-7-
7. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	-8-
8. 環境経営の取り組み内容（参考写真）	-9-
9. 環境関連法規等の遵守状況	-10-
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	-11-

1. 組織の概要

2023年度(期間：2023年7月～2024年6月)

1. 事業者名 株式会社 向江組
代表者氏名 代表取締役 向江 英隆

2. 所在地 [本 社]
〒839-0824 福岡県久留米市善導寺町飯田1136-5
Tel: 0942-47-1082 Fax: 0942-47-2346
E-mail: info@mukaegumi.co.jp
[倉 庫]
〒839-0824 福岡県久留米市善導寺町飯田1143
[車 庫]
〒839-0824 福岡県久留米市善導寺町飯田195-5
[資材置場]
〒839-0824 福岡県久留米市善導寺町島197-3

3. 環境管理責任者 専務取締役 : 向江 久利
及 び 担 当 者 担 当 者 : 向江 英子

4. 事業活動内容 ■土木工事、舗装工事、とび・土工工事、水道施設工事の施工
特定建設業：福岡県知事 許可(特-1)第33192号
許可業種：土木工事、舗装工事、とび・土工工事、水道施設工事、解体工事
①産業廃棄物収集運搬業許可
許可内容：積替保管を含まない。廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等、
汚泥（無機性に限る。）、紙くず、木くず、ゴムくず、がれき類
福岡県：許可番号 4000018797
許可年月日：令和4年4月12日 有効年月日：令和9年4月11日
②運搬車両の種類、台数
3tダンプ-3台、2tトラック-1台、4tダンプ1台、10tダンプ2台、13tトラック1台
* 産業廃棄物収集運搬は事業としては行っていない。

5. 事業概要 設 立： 1968年(昭和44年) 3月
資本金： 27,000千円
ISO9001：2015/JIS Q 9001:2015 認証取得
* 登録日：2002/2/8 (登録更新日：2019/1/29)

	単位	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
売上高	百万円	212	231	298	284	263	260	255
従業員数	人	9	12	12	13	13	13	13
床面積	m ²	1357	1357	1357	1357	1357	1437	1437

[床面積] 本社：100m²、資材置場：1087m²、車庫：80m²、倉庫：170m²
* 事業年度は7月～翌年6月です。

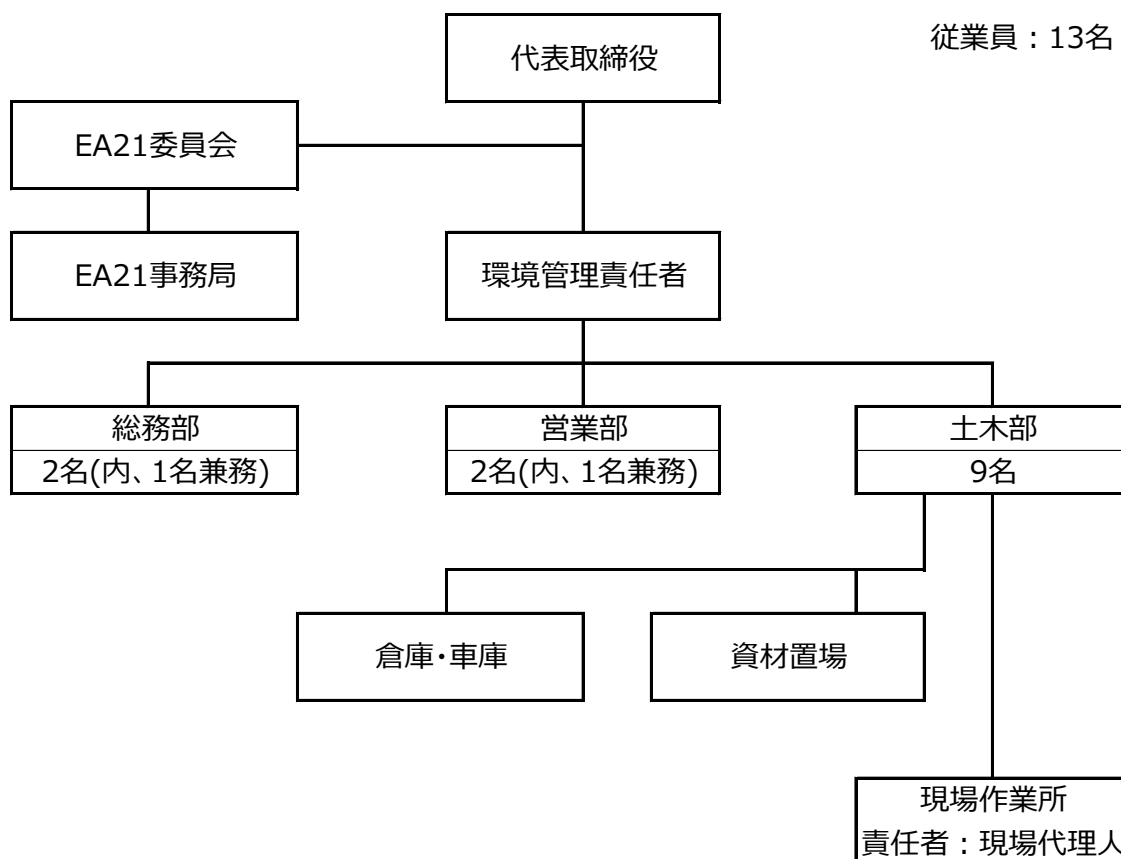
6. 認証・登録範囲 対象範囲：全組織・全活動
事業活動：土木工事、舗装工事、とび・土工工事、水道施設工事

2. 実施体制

2023年度(期間：2023年7月～2024年6月)

2024年6月30日現在

従業員：13名



[役割分担表]

役職・所属	役割・責任・権限
代表取締役	全体統括、経営における課題とチャンスの明確化、環境方針の設定、環境への取り組みを実施するための資源の準備、全体の評価と見直しを行う。
環境管理責任者	環境システムを構築・運用し、その状況を代表者に報告する。 環境方針以外の環境文書の制改定責任者。
EA21委員会	委員会を3カ月に1回開催。管理責任者から環境目標の達成状況及び環境活動計画の実行状況を報告、各部門の進捗状況の確認。
EA21事務局	EA21の文書及び記録類の作成・維持管理を行う。 環境関連の外部とのコミュニケーション窓口となる。
総務部	電力、水、車両燃料の使用量の管理、廃棄物量の管理とそれに伴うEA21の実施に取り組む。
全社員	環境方針を理解し、環境活動計画の推進に努める。

* 環境記録の保存期間は3年とする。

3. 環境経営方針

2023年度(期間：2023年7月～2024年6月)

株式会社向江組は、建設業の活動を通じて地球環境との調和、共生を最重要課題とし、法令遵守のもと環境経営の継続的改善を推進します。

同時に、事業を取り巻く環境負荷を会社一丸となって継続的に削減します。

1. 事業活動に伴う環境負荷を削減するために、以下の環境への取り組みを行います。

- (1) 事務所、現場事務所の電気の省エネルギーに努め、二酸化炭素排出量を削減します。
- (2) 建設工事に伴う車両、重機、機械類のエコ運転に努め、同時に設備面の見直しを積極的に行い、二酸化炭素排出量を削減します。
- (3) 節水により、水使用量を削減します。
- (4) 廃棄物の発生を抑制し、リサイクルを推進して産業廃棄物の削減に努めます。
- (5) 建設資材について循環資源の使用を進めます。
グリーン商品相当品の購入を進め、再生品の利用を推進します。

2. 地域社会や建設現場での環境配慮を重点的に行うとともに、環境ボランティア活動を通して地域貢献活動に努めます。

3. 当社の事業活動に於いて、環境関連法規等を遵守します。

4. 環境経営レポートを作成し公表することで、環境コミュニケーションを推進します。

制定：2011年 10月 1日

改訂：2020年 6月 1日

株式会社 向江組

代表取締役 向江 英隆

4. 環境経営目標（本社、現場）

2023年度(期間：2023年7月～2024年6月)

環境目標		単位	該当事業所	2019年度実績・基準年	2023年度（目標）	2024年度（目標）	2025年度（目標）	2026年度（目標）	2027年度（目標）
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	全社	39,845.1	38,251 -4%	37,853 -5%	37,454 -6%	37,056 -7%	36,657 -8%
	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	本社	5,687.4	5,460 -4%	5,403 -5%	5,346 -6%	5,289 -7%	5,232 -8%
	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	現場	34,157.7	32,791 -4%	32,450 -5%	32,108 -6%	31,767 -7%	31,425 -8%
(1)	電気使用量の削減	kWh	本社	6,389.0	6,133 -4%	6,070 -5%	6,006 -6%	5,942 -7%	5,878 -8%
	電気使用量の削減	kWh	現場	3,449.0	3,311 -4%	3,277 -5%	3,242 -6%	3,208 -7%	3,173 -8%
(2)	ガソリン使用量の削減	L	全社	5,308.0	5,096 -4%	5,043 -5%	4,990 -6%	4,936 -7%	4,883 -8%
	軽油使用量の削減	L	現場	8,579.0	8,236 -4%	8,150 -5%	8,064 -6%	7,978 -7%	7,893 -8%
2	一般廃棄物排出量の削減	kg	本社	93.0	91 -2%	90 -3%	90 -3%	89 -4%	89 -4%
	産業廃棄物再資源化率100%	%	現場	100	100	100	100	100	100
3	グリーン商品相当品購入の推進	通年	現場	計画の実施	計画の実施	計画の実施	計画の実施	計画の実施	計画の実施
4	地域貢献活動の推進	通年	全社	年4回以上	年4回以上	年4回以上	年4回以上	年4回以上	年4回以上
5	現場の騒音・振動・埃等の対策	通年	現場	計画の実施	計画の実施	計画の実施	計画の実施	計画の実施	計画の実施

* 電力の二酸化炭素調整後排出係数は、本社は2023年度フォーバルテレコム0.419kg-CO2/kWh、現場は2023年度九州電力0.382kg-CO2/kWhを用いる。

*%・回は、2019年度の実績をベースとしての削減率又は増加率を示す。

*水は地下水のみ使用。使用量、排水量は把握できないため、節水活動に取り組む。

5. 環境経営計画

2023年度(期間：2023年7月～2024年6月)

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		該当事業所	活動項目	
1	電気使用量の削減	全社	1	エアコン設定温度を決め、実行する（夏26℃ 冬23℃）
			2	使用していないパソコン電源を切る
			3	昼休み時間の消灯
2	ガソリン、軽油使用量の削減	全社	1	エコドライブの実施
			2	制限速度・積載量の遵守
			3	アイドリングストップの徹底
			4	定期点検の実施

2. 一般廃棄物排出量の削減及び産業廃棄物再資源化率100%

取組目標		該当事業所	活動項目	
1	一般廃棄物排出量の削減	本社	1	分別によるリサイクルの推進
			2	コピー用紙裏紙の利用
2	産業廃棄物再資源化率100%	現場	1	産業廃棄物再資源化の推進
			2	仮設の転用可能な資材等の活用(ヒューム管、塩ビ管等)

3. 節水活動の推進

取組目標		該当事業所	活動項目	
1	節水活動による水使用量の削減	全社	1	適正水量（水圧）での使用
			2	蛇口の確認

4. グリーン商品相当品購入の推進

取組目標		該当事業所	活動項目	
1	グリーン商品相当品の購入、再生品利用	現場	1	グリーン商品相当資機材の購入、再生品利用の促進

5. 地域貢献活動の推進。及び建設現場での環境対策の推進。

取組目標		該当事業所	活動項目	
1	地域での環境保全に貢献する。	全社	1	地域での環境活動に積極的に取り組む。
2	建設現場での環境対策の推進	現場	2	建設現場周辺の環境に配慮し、騒音・振動・埃等の対策

6. 環境経営目標の実績

EA21を運用した2023年度(2023年7月～2024年6月)における、目標に対する実績は次のとおり。

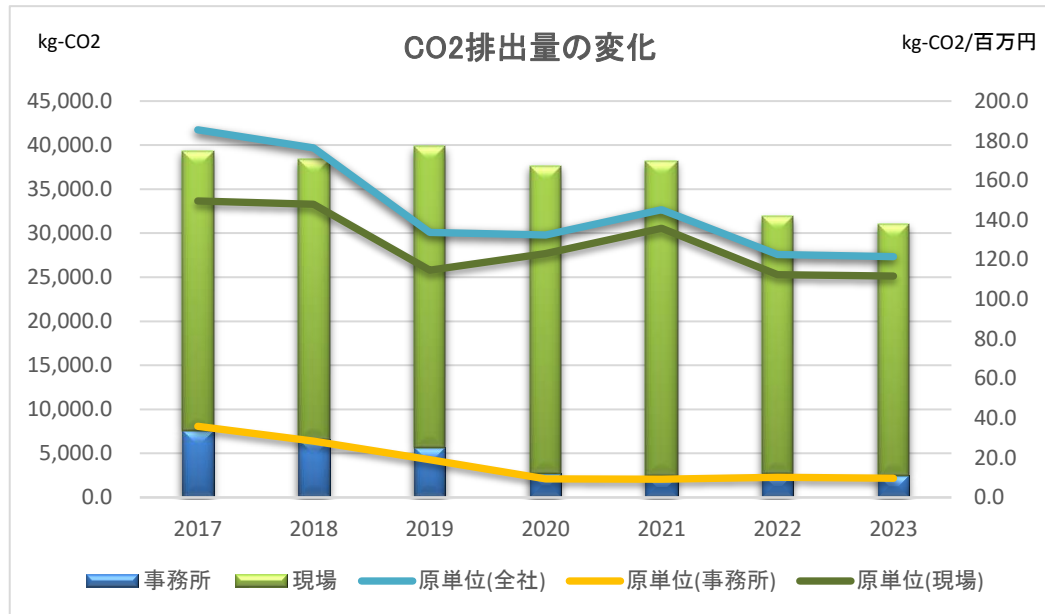
目 標 項 目		2023年度 目標数値	2023年度 実績	判定
環境目標	二酸化炭素排出量の削減（全社）	38,251.0 kg-CO2／年 以下	30,993.1	○
	本社	5,460.0 kg-CO2/年 以下	2,495.3	○
	現場	32,791.0 kg-CO2/年 以下	28,497.8	○
[取組目標]	本社：電気使用量の削減	6,133.0 kWh／年 以下	5,955.5	○
		511.0 kWh／月以下	(月平均 496.2)	
	現場：電気使用量の削減	3,311.0 kWh／年以下	1,206.0	○
		275.9 kWh／月以下	(月平均 100.5)	
	全社：ガソリン使用量の削減	5,096.0 L/月 以下	5,065.7	○
		424.6 L/月 以下	(月平均 422.1)	
	現場：軽油使用量の削減	8,236.0 L/年 以下	6,311.9	○
		686.3 L/月 以下	(月平均 525.9)	
	本社：一般廃棄物排出量の削減	91.0 kg/年 以下	101.2	×
		7.6 kg/月 以下	(月平均 8.4)	
環境目標	現場：産業廃棄物再資源化率100%	100%	100%	○
	グリーン商品相当品購入の推進	計画の実施	実施	○
	地域貢献活動の推進	年4回以上	5回	○
	現場の騒音・振動・埃等の対策	通年	実施	○

総合評価	今年度は現場の状況が例年と大きく違ったため、二酸化炭素排出量は目標値より大きく抑えられており、前年度に比べると大幅な削減となっています。
	電気使用量・ガソリン・軽油に関して、数値はすべて削減となっています。外に現場事務所を設置しなかったため、現場の電気使用量が抑えられています。ガソリン・軽油は前年比ではわずかに増加していますが、近郊での工事の移動が多かったためです。
	本社で発生するゴミは毎年一年を通してほとんど同じようなもので、これ以上の削減は困難です。
	前年度に引き続き、無駄を極力なくす努力をするように社員には徹底させました。
	グリーン商品に相当する資材については調査しながら選定・購入に努めていますが、いろいろなものを購入するわけではないため、数値目標を設けるのではなく、通年の努力目標としています。
	電気、一般廃棄物の削減はこれ以上見込めないため、車両・重機のメンテナンスを一層丁寧に行うことに注力しました。

6. 環境経営目標の実績（参考資料）

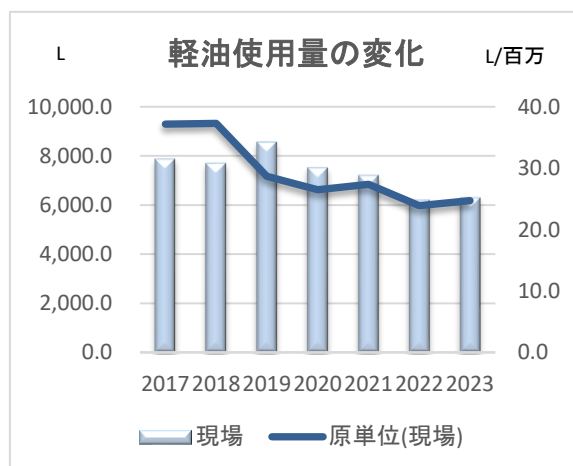
2023年度(期間：2023年7月～2024年6月)

CO2	総排出量	事務所	現場	原単位(全社)	原単位(事務所)	原単位(現場)	売上高
2017	39,342.2	7,619.4	31,722.8	185.5	35.9	149.6	212
2018	38,365.1	6,575.8	31,789.3	176.4	28.4	148.0	231
2019	39,845.1	5,687.4	34,157.7	133.7	19.0	114.6	298
2020	37,629.2	2,691.5	34,937.7	132.4	9.4	123.0	284
2021	38,202.0	2,439.0	35,763.0	145.2	9.2	135.9	263
2022	31,876.0	2,641.0	29,235.0	122.6	10.1	112.4	260
2023	30,993.1	2,495.3	28,497.8	121.5	9.7	111.7	255
単位	kg-CO2	kg-CO2	kg-CO2	kg-CO2/百万円	kg-CO2/百万円	kg-CO2/百万円	百万円



軽油	現場	原単位(現場)
2017	7,889.0	37.2
2018	7,717.0	37.3
2019	8,579.0	28.7
2020	7,534.0	26.5
2021	7,219.0	27.4
2022	6,224.0	23.9
2023	6,311.9	24.7
単位	L	L/百万円

ガソリン	全社	原単位(全社)
2017	5,660.0	26.6
2018	5,610.0	24.2
2019	5,308.0	17.8
2020	5,391.0	18.9
2021	5,428.0	20.6
2022	5,017.0	19.2
2023	5,065.7	19.8
単位	L	L/百万円



7. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

7-1.環境経営計画の取組結果とその評価

2023年度(期間：2023年7月～2024年6月)

1.	二酸化炭素排出量の削減 (1) 電気使用量の削減 (2) ガソリン、軽油使用量の削減	今年度は現場の状況が例年と大きく違ったため、二酸化炭素排出量は目標値より大きく抑えられており、前年度に比べると大幅な削減となっています。 電気使用量・ガソリン・軽油に関して、数値はすべて削減となっています。ガソリン・軽油は前年比ではわずかに増加していますが、近郊での工事の移動が多かったためです。 例年通り、車両・重機のメンテナンスを一層丁寧に行うことに注力しました。 社員の現場移動は、効率よくするよう指導を徹底しています。 車両、重機の定期点検は確実に実施されています。 次年度以降も、特に重機や車両のメンテナンスによる二酸化炭素排出量の削減を意識して取り組みを続けます。
2.	一般廃棄物排出量の削減 産業廃棄物再資源化率100%	
3.	節水活動の推進	水使用量も徹底した節水活動に取り組んでいます。 今後も一層の節水を心がけていきます。
4.	グリーン商品相当品の調査・購入の推進	資材の購入時には、グリーン商品に相当するものを優先しています。 今後も可能な限りグリーン商品相当品を購入するように努めます。
5.	地域での環境保全に貢献 建設現場での環境対策の推進	本社事務所周辺の地域清掃活動に参加しています。 資器材の提供などを今年度も実施しました。 適正な機械使用の推進のため、オイルなどの点検もこまめに実施しており、整備・修理もできるだけ自社で行っています。 各現場事務所周辺の環境保全活動もさらに積極的に推進します。 工事現場周辺の騒音・振動・埃対策を積極的に行っています。 次年度も、河川工事、児童通学路、住宅街での工事では特に配慮した施工計画を実施します。

7-2.次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度の環境経営計画は、基本的に今期の計画を継続して取り組みます。

8. 環境経営の取り組み内容(参考写真)

2023年度(期間：2023年7月～2024年6月)

資材の再利用・有効活用 重機・トラックの整備

終了した現場の材木や材料の鉄骨片を加工して、大型トラックの車庫兼整備場を自社で作りました。山の現場から切り出した材木などで、他の現場で利用できるものがあれば製作して利用しています。



重機を10台保有しており、全て低騒音型で排ガス2次規制以上の機械です。

定期的に部品をばらして、グリスを塗って錆びないように手入れをします。

特定自主点検も自社で行っています。

トラックは8台保有しており、キズや凹みの補修などはその都度行い、定期的な塗装もし、長く使用できるように努めています。



9. 環境関連法規等の遵守状況

2023年度(期間：2023年7月～2024年6月)

法律	要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (一般廃棄物の処理)	委託	適合
	委託基準	適合
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (産業廃棄物の処理)	処理の義務	適合
	処理基準	適合
	保管基準	該当なし
	建設廃棄物の保管	該当なし
	委託	適合
	委託基準	適合
	排出者責任	適合
	産業廃棄物管理票の交付	適合
	産業廃棄物管理票の写しの保存期間	適合
	管理票交付者の報告書	適合
	管理票の写しの送付を受けるまでの期間	適合
	管理票交付者が講ずべき措置	適合
	建設工事の廃棄物の処理の例外	適合
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	投棄禁止	適合
	焼却禁止	適合
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	建設業等を営む者の責務	適合
	分別解体等 実施義務	適合
	対象建設工事の届出に係る事項の説明等	適合
	対象建設工事の請負契約に係る書面の記載事項	適合
	再資源化等実施義務	適合
	発注者への報告等	適合
	下請負人に対する元請業者の指導	適合
騒音規制法	特定建設作業の事前届出	該当なし
	規制基準の遵守	適合
振動規制法	特定建設作業の事前届出	該当なし
	規制基準の遵守	適合
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（オフロード法）	使用の制限	適合
	特定特殊自動車排出ガスの抑制を図るための指針	適合
使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）	自動車の所有者の責務	適合
	使用済自動車の引渡義務	適合
	再資源化預託金等の預託義務	適合
フロン排出抑制法	第一種特定製品の所有者の簡易点検	適合
	第1種特定製品廃棄実施者の引渡義務	該当なし
	第一種特定製品廃棄等実施者による書面の交付等	該当なし
家電リサイクル法	消費者の責務	該当なし
	事業者の責務	該当なし
小型家電リサイクル法	消費者の責務	該当なし
	事業者の責務	該当なし

* 当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

2023年度(期間：2023年7月～2024年6月)

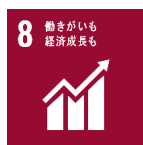
■ 現状における当社の環境への取り組みについて

エコアクションの理念、SDGsの概念を意識して環境経営の改善を行っています。
建設現場の状況は年度によって工種や気候の変化に左右されるため、電力や燃料の削減を計画実行するのは困難です。当社が取り組んでいる活動は、数値の削減ではないこと、「まちづくり」や「つくる責任」といったことを意識することを常に社員に伝えています。毎年、すべての数値を前年度よりマイナス1%とすることに注力せず、電気や燃料の数値を一覧にしてCO2排出量を「見える化」しています。社員が現場状況の変化によるエネルギー使用量の増減などを実感することこそが大事だと思っています。

資材の有効活用や機械のメンテナンス及び、現状に応じた入れ替えによる効率化、などを常時積極的に取り組むようにしました。現場の条件に応じて環境活動の成果を上げていくための創意工夫にはも常に注力しています。河川沿いの工事、住宅街の工事、学童通学路の工事は特に密に計画を立てるようにしています。「つかう責任」として、工事現場から出る材木を活用して自社で製材加工し、杭や板を製作してリサイクル品として活用しています。「クリーンなエネルギー」のため、建設機械は、低騒音・低振動型及び排ガス第3次対策機を使用し、重機やトラックのメンテナンスをこまめに行うことで、燃費の向上につなげています。

今年度受注した工事は、JVの下水道工事以外は年間契約の修繕工事と夏場の災害に伴う復旧工事でした。例年とは違い、本社からの近距離移動を伴う作業がほとんどでしたので、全体的に数値としての環境目標は達成しています。

社員の環境に対する意識づけを引き続き行い、SDGsの取り組みを社員が誇りに思える環境経営に引き続き邁進します。同時に、地域社会における当社の責任をよく周知徹底し、全社一丸となって取り組みを進めて行きます



■ 環境経営方針についての見直しと今後の取り組みについて

1. 環境負荷の軽減に関する取り組みについて

全体として、数値目標は達成した。資源の再利用など、今年度も積極的に取り組んだ。新規導入した低騒音・低振動型の機械の有効活用、メンテナンスの強化は継続していくこと。今後も引き続き、現場での意識の継続・削減への取り組みをさらに強化していくこと。

2. 環境ボランティア活動について

ノーポイ運動などの地域での清掃活動への参加はこれまでも積極的に行っており、今後も続けること。各現場周辺の地域での環境ボランティア活動や自主清掃などへの取り組みを今後も継続して進めていくこと。

3. 法令順守について

当社では、法令順守はとても重要であると認識しており、社員へも徹底がなされている。今後もより一層の法令順守への意識向上を目指すこと。

- 環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画、実施体制については、現時点では変更する必要はない。

2024年 9月1日
株式会社 向江組
代表取締役 向江 英隆